

ともに励まん



2018, 6, 1 (金)

北海道旭川永嶺高等学校2年次だより 第8号 (通巻53号)

きょうから6月 水無月

テスト1週間前!

いさぎよ かんよう

潔さと寛容さと

大学アメリカンフットボールの対校試合で、悪質なタックルをした事件が話題になっています。

当の選手が実名、顔を出して記者会見を開いて謝罪し、事実を隠すことなく公にした、誠に潔い態度に、感銘を受けた人も多かったのではないのでしょうか。片や、選手に危険プレーを指示したとされる大学側の対応は鈍く、当該大学の学生、教職員、さらには選手父母会などからもさまざまな声が…。

ひるがえって、国会ではもう長いこと、「モリ・カケ問題」「文書改ざん問題」「イラク日報隠蔽問題」などで紛糾をくり返し、一向に解決の兆しが見られません。だれも潔く「私がやりました」「ごめんなさい」と言わないからなのでしょう。どうして、アメフトの学生のように潔い態度が取れないのでしょうか。大人になったら、立場や面子、地位などが邪魔するのでしょうか、言い訳の上に言い訳を重ねるのは見苦しい。強弁、屁理屈、言い逃れ、まるで「漱石枕流」の孫氏のようなですね。人として正しい行動が取れなくなるのは情けない。

昔から、火のないところに煙は立たない、といひます。お天道様はお見通した、とも言われてきました。先人の知恵だと思ひます。

学生であろうと、いい年食ったおっさんであろうと、間違えたときには素直に「ごめんなさい」と言える人になりたいですね。そして、率直に謝られたら、広い心で「許す」、そういう社会でありたいものです。



6月のうた

そうもん
相聞

みなづき
また立ちかへる水無月の

なげ
歎きを誰に語るべき。

さらえ
沙羅のみづ枝に花さけば、

かなしき人の目ぞ見ゆる。

そうもん
(芥川龍之介「相聞 三」)



芥川は23歳で『羅生門』を発表、35歳で自死するまでの12年間で、あれだけの膨大な作品を生みだしました。ちなみに夏目漱石もほぼ同じくらいの期間にあれだけの作品を生み出しています。まさに「文豪」の名に値する才能と業績です。

さて、漱石に俳句、漢詩の才能があったように、芥川は小説以外にもたくさんの短歌、詩を残しています。そんななかから、6月の詩として紹介するのは、私が高校1年の時に現国（当時「現代国語」という科目をそう略称していました）の先生が教えてくれた、この詩です。ノートの片隅にメモしておいたこの詩を、教員になってから毎年紹介しています。

芥川龍之介は私の祖父と同年の明治25年の辰年に生まれました。同じ辰年ですが片や「龍之介」、片や「辰六」。龍之介はことし生誕126年、没後91年になります。

*「相聞」とは、広く贈答の歌の意。恋の歌が多い。もとは、「万葉集」の部立ての1つ。そのうち「古今和歌集」になると、「恋」という部立ての名前に変わります。すなわち「相聞歌」＝「恋歌」になるのです。